

高田松原津波復興祈念公園整備の進捗状況について

1 工事の進捗について

- (1) 国、県及び陸前高田市で整備を進めている高田松原津波復興祈念公園については、平成29年3月の起工式を皮切りに、下記の区分により工事が進められている。
- 【整備区分】
- (国) 国営追悼・祈念施設（仮称）、重点道の駅「高田松原」
 - (県) 高田松原津波復興祈念公園（国、市以外）、東日本大震災津波伝承館
※関連工事として、気仙川水門、防潮堤復旧、松原・砂浜の再生
 - (市) 地域振興施設、高田松原公園（運動公園）
※東日本大震災津波伝承館及び地域振興施設は道の駅内に整備される。
- (2) 公園の造成工事は平成29年7月に着手し、県議会12月定例会に造成工事の変更契約及び園路や植栽などの整備工事の契約を提案している。
- | | |
|-------------|---------------------|
| 造成工事（第2回変更） | 契約額：約13億3,300万円 |
| | 工期：平成29年7月～平成32年3月 |
| 整備工事 | 契約額：約14億9,700万円 |
| | 工期：平成30年12月～平成33年3月 |
- (3) 2019（平成31）年の東日本大震災津波伝承館等の開館時期（8～9月）にあわせて公園の一部区域の供用を開始し、2021（平成33）年度当初の全面供用を目指している。

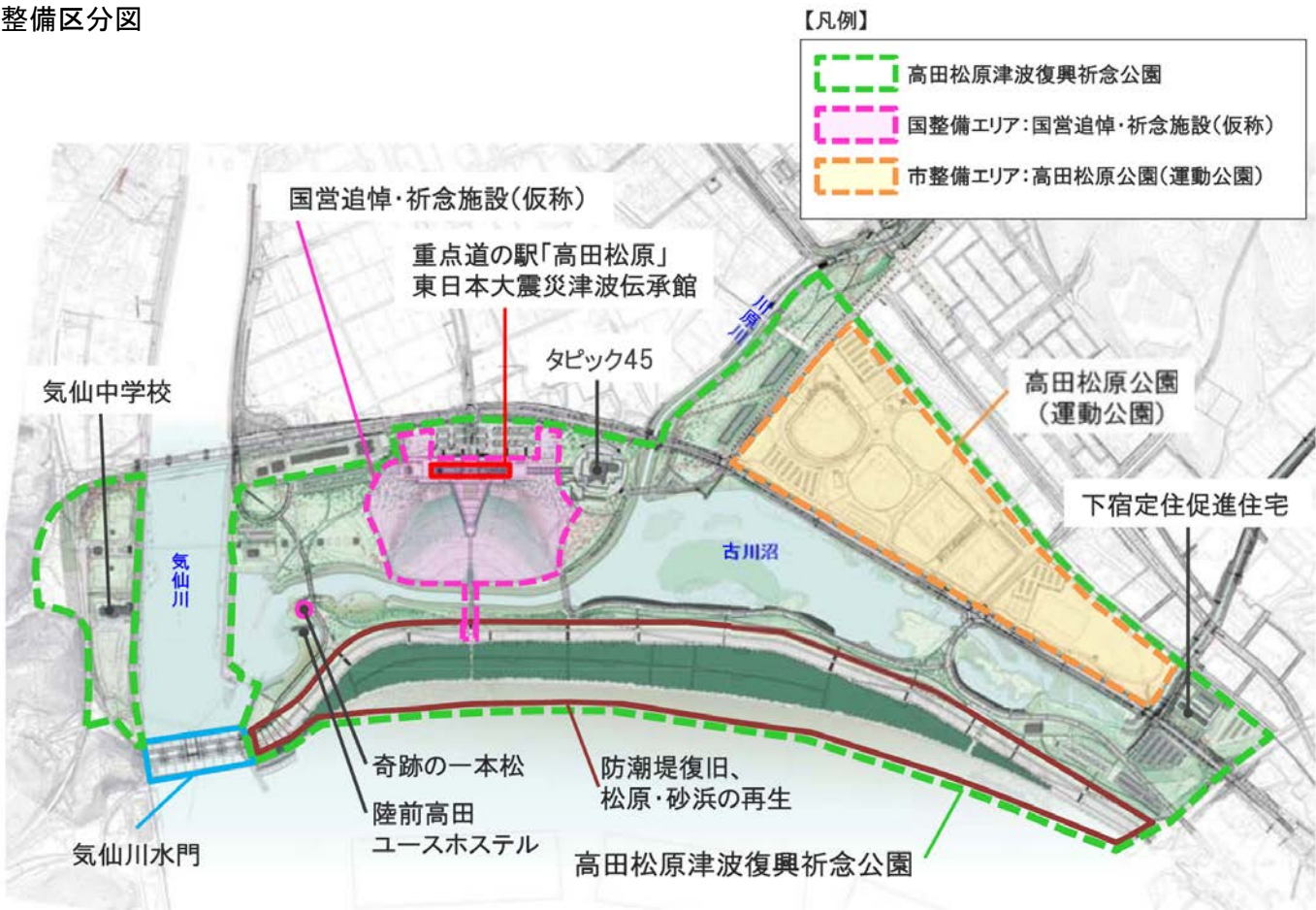
2 復興祈念公園内の遺構の活用について

- (1) 高田松原津波復興祈念公園内には、被害の程度や破壊力の大きさなど津波の脅威を後世に伝える貴重な遺構である「タピック45」、「気仙中学校」、「奇跡の一本松」、「陸前高田ユースホテル」及び「下宿定住促進住宅」が存在している。
- (2) 復興祈念公園の価値を高めるため、これら遺構の活用について陸前高田市と検討を行うとともに、所有と管理の役割分担について確認し、覚書を締結した。

遺構	タピック 45	気仙 中学校	奇跡の 一本松	陸前高田ユー スホテル	下宿定住 促進住宅
利活用方法	内部への立入見学		外部からの見学のみ		
遺構の所有	陸前高田市				
遺構本体の管理	陸前高田市				
外構施設の整備・管理 (立入防止柵等)	岩手県				

- (3) 「タピック45」及び「気仙中学校」については、内部への立入見学を行うため陸前高田市が必要な改修を行うものであり、県は支援を行うこととしている。

整備区分図



工事の進捗状況



平成30年10月撮影

東日本大震災津波伝承館について

1 事業計画概要

- (1) 本施設の整備方針（H28.6 展示等基本計画）
- ア 東日本大震災津波の事実と教訓の世界そして未来への伝承
 - イ 復興に立ち上がる姿と感謝の発信
 - ウ 三陸沿岸地域へのゲートウェイ機能を有する施設として整備
 - エ 屋外の震災遺構等を震災被害の実物展示として活用
- (2) 伝承館における事業（H29.3 展示等基本設計）
- ア 展示事業（常設展示の更新及び企画展示の開催）
 - イ 教育・普及事業（各種学習プログラム整備・実施、語り部・ボランティアの教育・人材育成、大型イベントの企画・実施及び各種教材の開発）
- (3) 関係機関、道の駅、被災地振興施策等との連動
- ア 市や国、道の駅、市民団体、研究機関、国内外類似施設等との連携・協働による展示・教育普及事業の推進
 - イ 国の伝承ネットワーク構想の取組との連携
 - ウ 伝承ツーリズム、観光エージェント等とのタイアップ
 - エ 修学旅行ほか団体の誘致
 - オ 三陸防災復興プロジェクト2019、ラグビーワールドカップ2019™及び2020年オリ・パラ東京大会との連携

2 施設の整備状況

国等が再建する重点道の駅「高田松原」（2019年6月竣工見込）内に伝承館を整備（約1,500㎡）

【道の駅建物内の整備等区分（右の建物平面図参照）】

施設名	地域振興施設（物販・飲食等）	国営追悼・祈念施設（仮称）管理棟	伝承館	道路情報提供施設等	トイレ
整備	市※1	建物－国 展示（伝承館）－県※2	建物－国 展示－県※3	建物－国 展示（伝承館）－県※2	国
管理	市	国・県・市	県	国・県・市	市

※1 施工については市から国に委託
※2 伝承館のゾーン0が道路情報提供施設等に、ゾーン4が国営追悼・祈念施設（仮称）管理棟に入居
※3 伝承館のゾーン1～3が入居

3 管理運営形態

当初3年度間程度（2019年度～2021年度）は県が直接管理運営を行う形態（直営）とする方針

4 入館料について

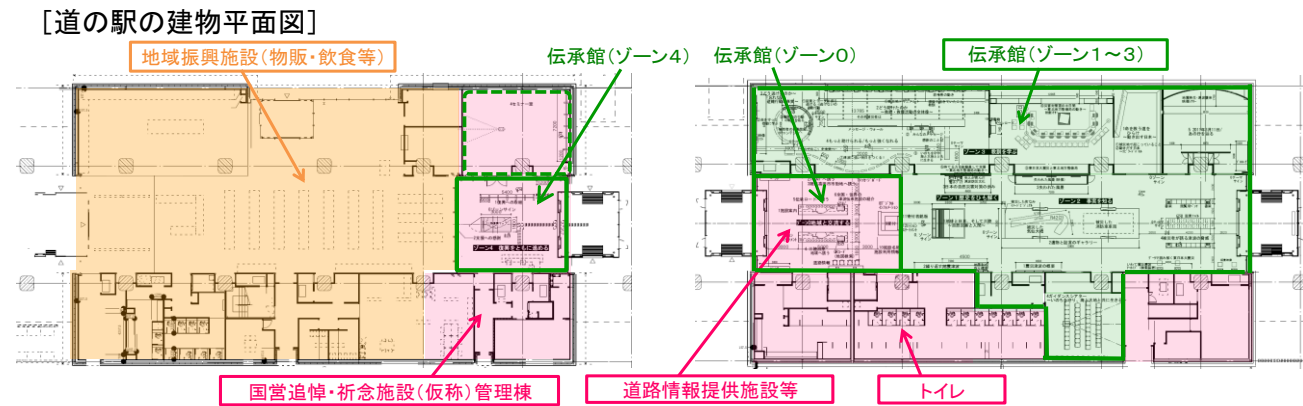
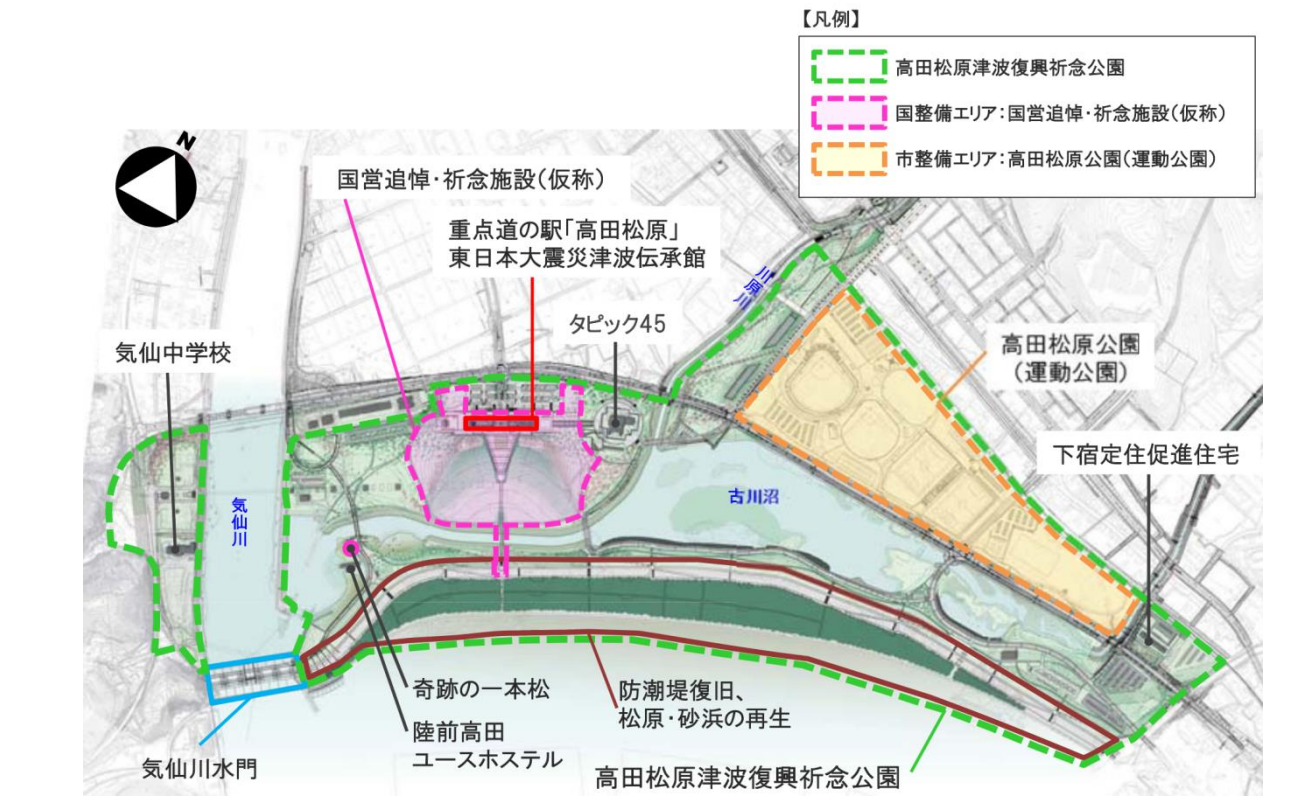
入館料については無料とする方針

5 スケジュール（予定）

2019年2月 県議会2月定例会に施設設置・管理条例議案及び予算議案提出
7月 展示施設完成
8月～9月 開館

6 全体事業費（見込）

703百万円（債務負担行為設定済。うち現契約額641百万円（今後変更契約により必要な増額を行う予定））



【参考】これまでの検討経過

年月日	内容
H26.5.15	「震災津波伝承まちづくりプロジェクトチーム」設置（庁内関係室課で構成） 震災津波伝承のあり方や伝承機能を有した拠点施設整備等について検討
H27.1.30	「震災津波伝承のあり方～伝承施設の基本的方向～」取りまとめ
H27.8.11	「高田松原津波復興祈念公園震災津波伝承施設検討委員会」設置（有識者6名で構成）
H27.9～H28.2	「平成27年度 高田松原津波復興祈念公園震災津波伝承施設検討委員会」開催（3回） 震災津波伝承施設展示等基本計画について検討
H28.2～H28.5	「震災津波伝承施設展示等基本計画（案）」に係る意見募集（パブリック・コメント）
H28.6.23	「震災津波伝承施設展示等基本計画」策定
H28.8～H29.2	「平成28年度 高田松原津波復興祈念公園震災津波伝承施設検討委員会」開催（2回） 震災津波伝承施設展示等基本設計について検討
H29.3.7	「震災津波伝承施設（仮称）展示等基本設計」取りまとめ
H29.7.28	「平成29年度 高田松原津波復興祈念公園震災津波伝承施設検討委員会」開催 震災津波伝承施設展示等実施設計（骨子）策定
H29.12.28	「震災津波伝承施設（仮称）展示等実施設計」完了
H30.1.9	「ミッション・ステートメント」決定
H30.3.2	「震災津波伝承施設（仮称）展示製作業務」契約
H30.3.26	正式名称を「東日本大震災津波伝承館」と決定、公表
H30.4.12～5.11	東日本大震災津波伝承館の愛称を公募
H30.8.23	伝承館の愛称を「いわて TSUNAMI メモリアル」と決定、公表

いのちを守り、海と大地と共に生きる ～二度と東日本大震災津波の悲しみを繰り返さないために～

● ミッション・ステートメント

日本列島は、地球上でも特に自然災害の危険性が高い宿命の地であり、この地に生きる私たちは、長年にわたり自然災害への対応力を高めてきました。
しかし、2011年3月11日に発生した東日本大震災津波により、私たちは多くの尊い命を失いました。
この悲しみを繰り返さないためには、知恵と技術で備え、自ら行動することにより、様々な自然災害から命を守り、そして、自然災害を乗り越えていくことが重要です。
東日本大震災津波伝承館は、先人の英知に学び、東日本大震災津波の事実と教訓を世界中の人々と共有し、自然災害に強い社会と一緒に実現することを目指します。
そして、東日本大震災津波を乗り越えて進む姿を、支援への感謝とともに発信していきます。

● 各ゾーンのねらい

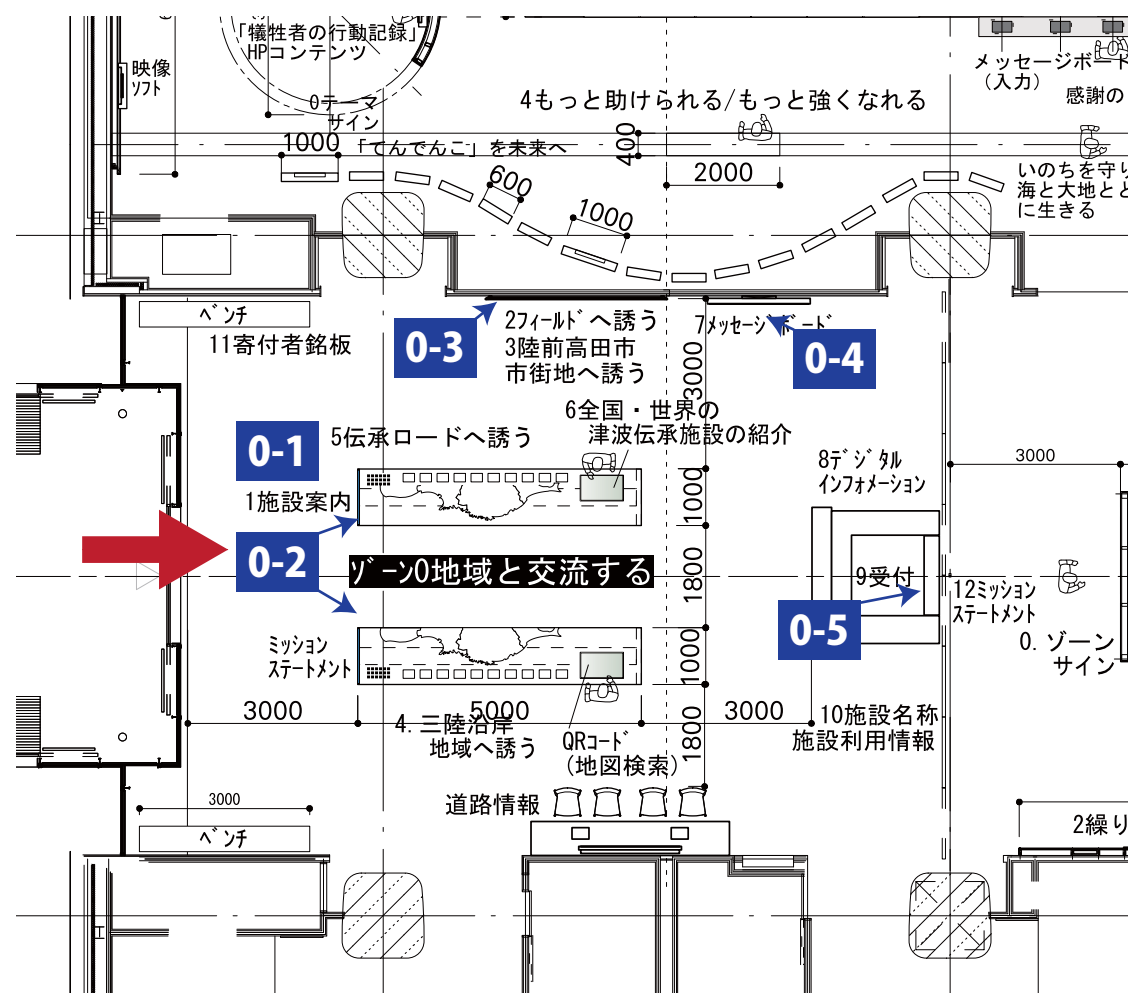
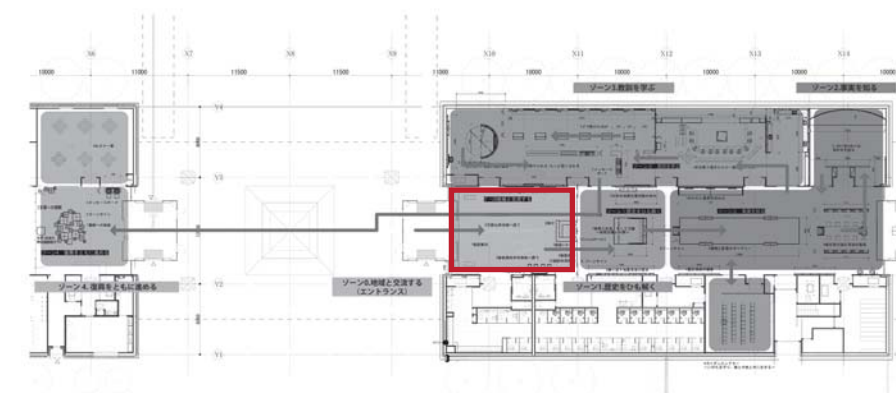
ゾーン0；地域と交流する 来館者を最初に迎える場としてインフォメーションを提供するとともに、公園、陸前高田市街地、三陸沿岸地域へと誘う情報提供を行う。さらに、全国・世界の類似施設情報を提供する。	・来館者を最初に迎える場として、必要なインフォメーションを提供するとともに、本施設の趣旨を伝える。 ・公園、陸前高田市街地、三陸沿岸地域へ誘うゲートウェイとして、それぞれの震災伝承関連施設や観光情報を発信する。 ・全国・世界の類似施設の情報を提供する
ゾーン1；歴史をひも解く すべての人間は自然災害リスクと隣り合わせにること、特に日本列島は自然災害リスクが高く、とりわけ三陸地域は津波の常襲地であること、それに対して知恵や技、文化を育み、自然災害への対応力を高めてきたことについて、歴史をひも解きながら伝える。	・動き続ける地球において、自然の猛威ははかり知れないものであり、人類は想像を超える大災害のリスクと常に隣り合わせにあること、東日本大震災津波を引き起こした東北地方太平洋沖地震も地球の営みの一つであることを伝える。 ・日本列島は地球上で特に自然災害リスクが高い地域であること、とりわけ三陸地域は、繰り返し津波に苦しめられてきた宿命の地であることを伝える。 ・そうした過酷な自然のもと懸命に生を重ねていく中で育んできた知恵や技、文化を伝え、自然災害への対応力を高めてきたことについて知ってもらう。
ゾーン2；事実を知る 東日本大震災津波の事実をありのままに伝え、津波の脅威、被害の実相、命が失われることの重さを、一人ひとりの心に刻む。	・東日本大震災津波の事実について、各種データ、被災者の証言、遺物、映像等を駆使して描き出す。 ・被災した方々の経験や思いに被災者自身の言葉を通じて触れてもらい、命が失われるということの重さなどを自らに引き寄せて考えてもらう。 ・東日本大震災津波によって失われてしまった故郷の風景を記憶・継承する。
ゾーン3；教訓を学ぶ 東日本大震災津波の経験から得た様々な教訓を伝え、知恵と技術で備え、主体的に行動することで多くの命を守れることを学んでもらう。	・人々が東日本大震災津波にどのように立ち向かったのか、その事実を伝えることで、被災現場の困難を極める状況や救助救援活動の今後のポイント、事前の備えと主体的な行動の重要性などについて学んでもらう。 ・人の命運を分ける「逃げる・逃げない」の行動について深く考えてもらい、「逃げる」ことの難しさや重要性を心に刻んでもらう。 ・東日本大震災津波から得た様々な教訓を、未来の命を守る貴重な知恵として発信するとともに、未来の災害から命を守るために、これからどうしたらよいのかについて考えてもらう。
ゾーン4；復興をともに進める 東日本大震災津波を乗り越えて進む被災地の姿を、全国・世界からの支援に対する感謝とともに伝える。	・全国・世界からのあたたかい支援に対する感謝の心を示す。 ・津波災害に強いまちづくりや復興の状況など、被災地の`今、`を発信し続け、東日本大震災津波を乗り越えて進む被災地の姿を伝える。

展示展開 1

ゾーン0. 地域と交流する

来館者を最初に迎える場としてインフォメーションを提供するとともに、公園、陸前高田市街地、三陸沿岸地域へと誘う情報提供を行う。さらに、全国・世界の類似施設情報を提供する。

- ・来館者を最初に迎える場として、必要なインフォメーションを提供するとともに、本施設の趣旨を伝える。
- ・公園、陸前高田市街地、三陸沿岸地域へ誘うゲートウェイとして、それぞれの震災伝承関連施設や観光情報を発信する。
- ・全国・世界の類似施設の情報を提供する



0-1 施設案内

施設入口部で、「東日本大震災津波伝承館」の開館時間や休館日などの基本的な情報を伝える。



0-2 三陸沿岸地域へ誘う／伝承ロードへ誘う

地域情報の発信を行うなど、多様な交流を育む場として、三陸沿岸地域へ誘うゲートウェイとしての機能を持たせる。

- ・三陸沿岸地域へ誘う
復興に向けて歩んでいる三陸沿岸地域をメッセージするとともに、三陸ジオパークやその他主要な観光スポットの情報を紹介する。
- ・伝承ロードへ誘う
伝承ロード(仮)の趣旨、これを構成する主要な施設について紹介するとともに、全国・世界の類似施設の情報を紹介する。



0-3 フィールドへ誘う／陸前高田市街地へ誘う

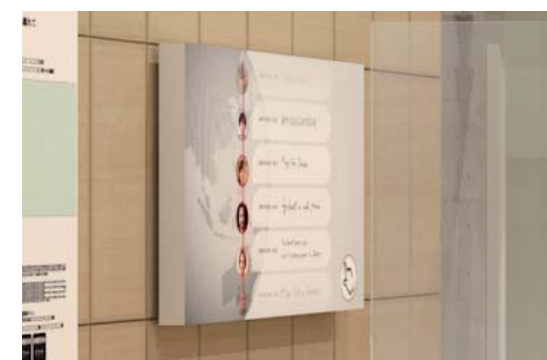
本施設が立地する復興祈念公園のフィールド案内、陸前高田市の中心市街地の紹介を行う。

- ・フィールドへ誘う
震災遺構をはじめ、公園内を紹介する。
- ・陸前高田市街地へ誘う
被災後、新たな街として再生しようとしている市街地の全体像を紹介するとともに、見どころや観光スポットなどの情報を提供する。



0-4 メッセージボード

来館者がこの施設に残したメッセージを閲覧できる映像装置。メッセージを入力する場合は、展示を見終わったゾーン3の最後に設置。メッセージは蓄積されみんなで共有できるようにする。



0-5 施設メッセージ

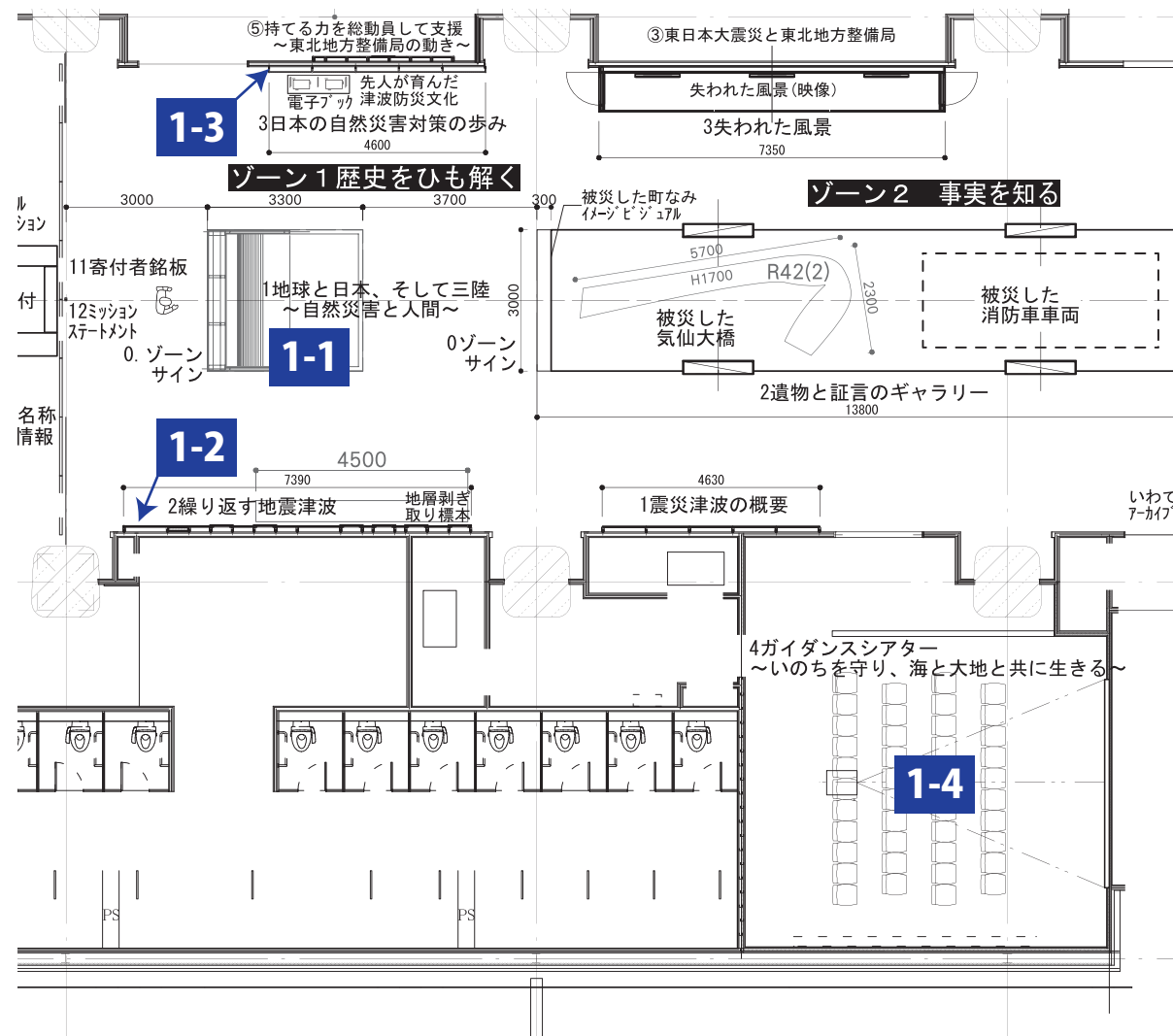
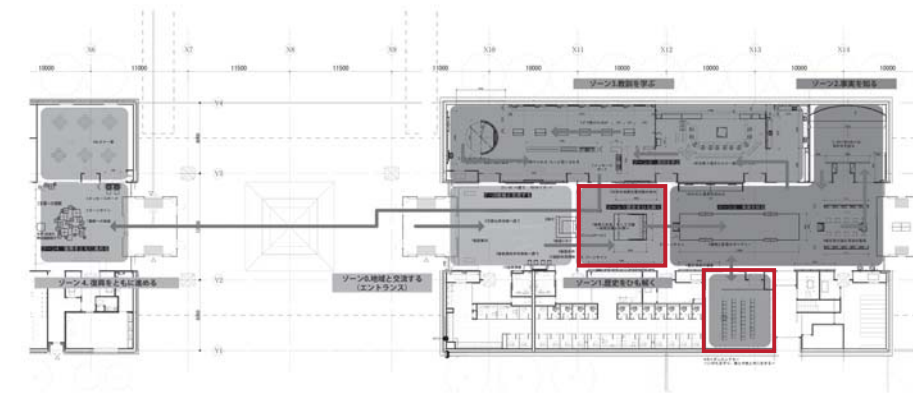
展示の導入部として、施設の趣旨をシンボリックに伝える。展示紹介をはじめとして、インフォメーションの表示、緊急時には避難情報も併せて提示する。



ゾーン1. 歴史をひも解く

すべての人間は自然災害リスクと隣り合わせにいて、特に日本列島は自然災害リスクが高く、とりわけ三陸地域は津波の常襲地であること、それに対して知恵や技、文化を育み、自然災害への対応力を高めてきたことについて、歴史をひも解きながら伝える。

- ・動き続ける地球において、自然の猛威ははかり知れないものであり、人類は想像を超える大災害のリスクと常に隣り合わせにあること、東日本大震災津波を引き起こした東北地方太平洋沖地震も地球の営みの一つであることを伝える。
- ・日本列島は地球上で特に自然災害リスクが高い地域であること、とりわけ三陸地域は、繰り返し津波に苦しめられてきた宿命の地であることを伝える。
- ・そうした過酷な自然のもと懸命に生を重ねていく中で育んできた知恵や技、文化を伝え、自然災害への対応力を高めてきたことについて知ってもらう。



1-1地球と日本、そして三陸

地球の営みははかり知れず、想定を超える災害リスクを常にはらんでいることへの気づきに導く。日本は自然災害リスクが高いこと、とりわけ三陸地域は世界有数の津波常襲地域であることを3DCG等でリアルに紹介する。



1-2繰り返す地震津波の歴史

三陸地域を中心に全国、世界にも視野を広げながら、繰り返し襲来した津波の事実を時系列で辿る。貞観津波や東日本大震災の津波の痕跡を残す地層の剥ぎ取りも活用し、繰り返し津波が襲ってきた事実を目の当たりにする。



1-3日本の自然災害対策の歩み

自然災害リスクの高い日本が、これまでどのように自然災害を乗り越えてきたのかを探るコーナー。洪水や地震、津波などの自然災害対策の歩みをひも解く構成とする。



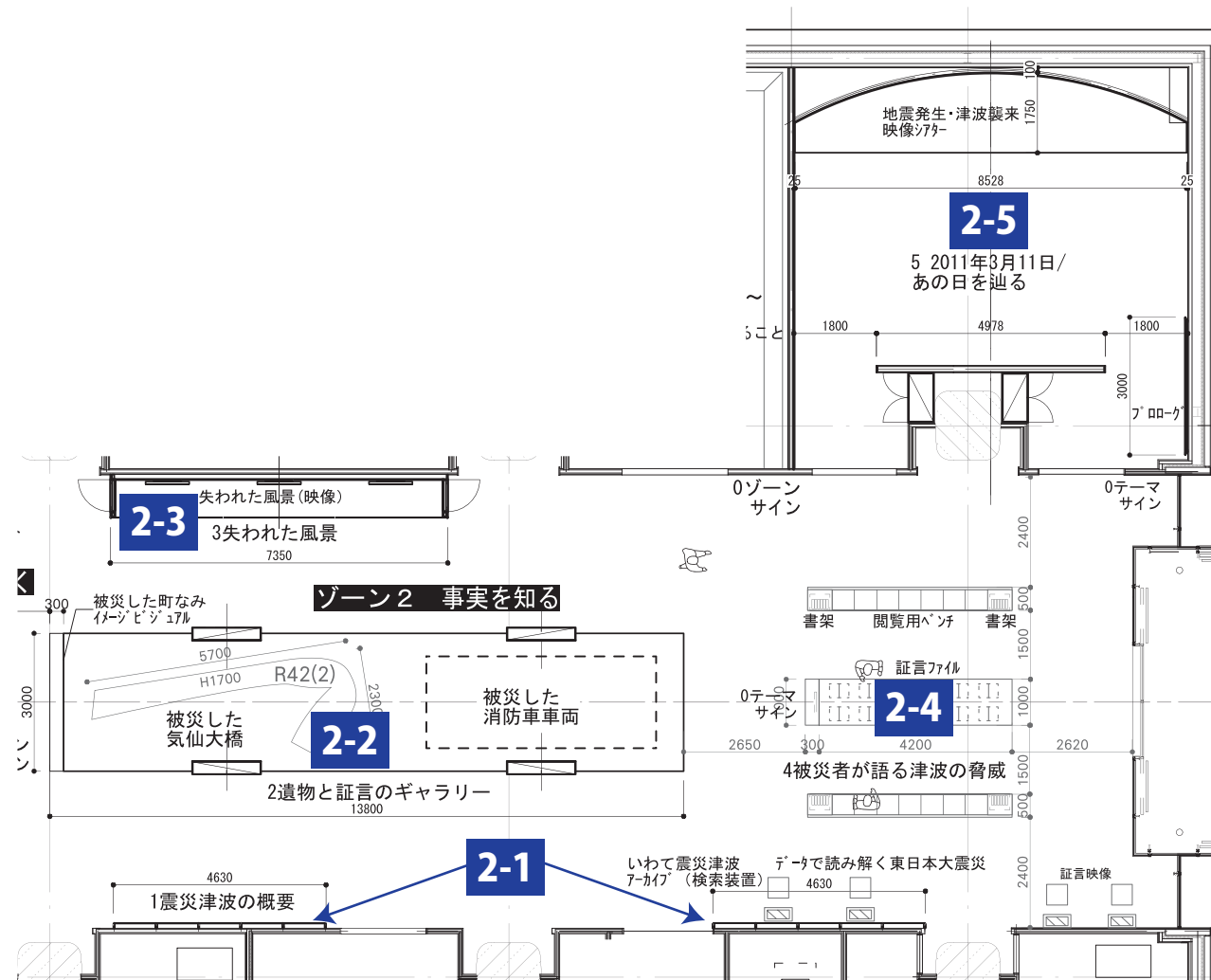
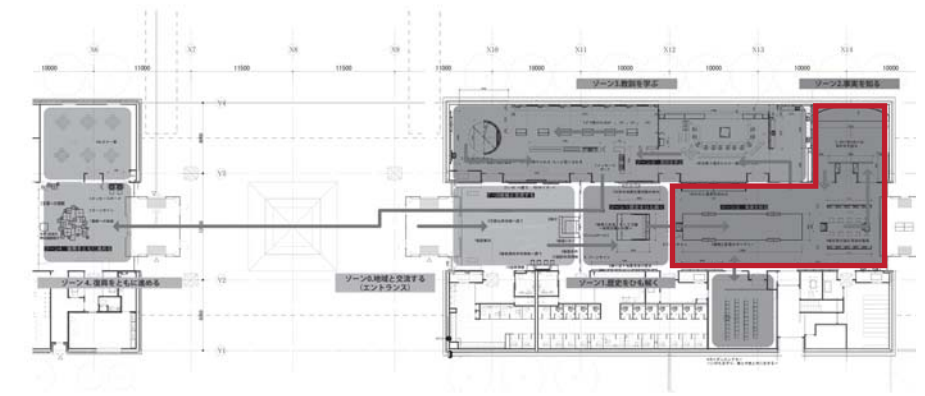
1-4ガイダンスシアター

津波襲来の「宿命」と災害を「乗り越えようとする人間・社会」という視点で「いのちを守り、海と大地と共に生きる」をテーマとするこの施設の展示全体の趣旨を総括して伝える大型の映像シアター。

ゾーン2. 事実を知る

東日本大震災津波の事実をありのままに伝え、津波の脅威、被害の実相、命が失われることの重さを、一人ひとりの心に刻む。

- ・東日本大震災津波の事実について、各種データ、被災者の証言、遺物、映像等を駆使して描き出す。
- ・被災した方々の経験や思いに被災者自身の言葉を通じて触れてもらい、命が失われるということの重さなどを自らに引き寄せて考えてもらう。
- ・東日本大震災津波によって失われてしまった故郷の風景を記憶・継承する。



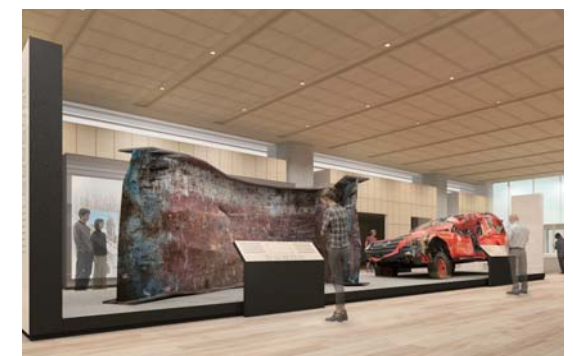
2-1 震災津波の概要

東日本大震災津波の基本的情報を分かりやすく伝える場とする。東日本大震災の概要、岩手県の被害概要等を各種データを用いて解説し、いわて震災津波アーカイブのデータも検索できるようにする。



2-2 遺物と証言のギャラリー

東日本大震災津波の大型の被災物を展示し、関連する情報を紹介するなど、背景にある事実を伝え、東日本大震災津波の実相について一人ひとりが思いを馳せ考える場とする。展示物としては気仙大橋の一部、消防自動車を象徴的に展示する。



2-3 失われた風景

失われた風景を記憶・継承するとともに、被害の大きさを伝えるものとして、被災前後の風景を比較できるように展示する。東日本大震災津波によって失われてしまった、三陸地域の町並みを広く取り上げるものとし、タピック45等、本施設が立地する地域の被災前の姿、被災直後の姿も伝え、フィールドへ出た時の予備知識にもなるようにする。



2-4 被災者が語る津波の脅威

被災者の体験、被災者が見た津波のリアルな姿を、被災者の証言、生の言葉より浮き彫りにする。被災者一人ひとりの実体験、その場に遭遇したからこそ語れる言葉から、津波の恐ろしさ、津波被害の甚大さ、命の大切さや深い悲しみ・苦しみなどを、人々がそれぞれに自分に引き寄せて感じ、考えられる場とする。



2-5 2011年3月11日 あの日を辿る

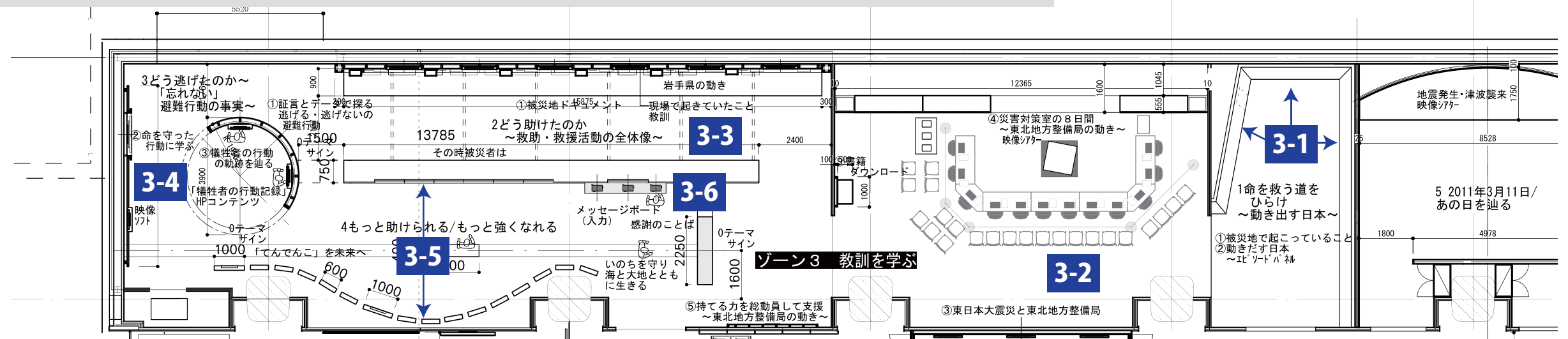
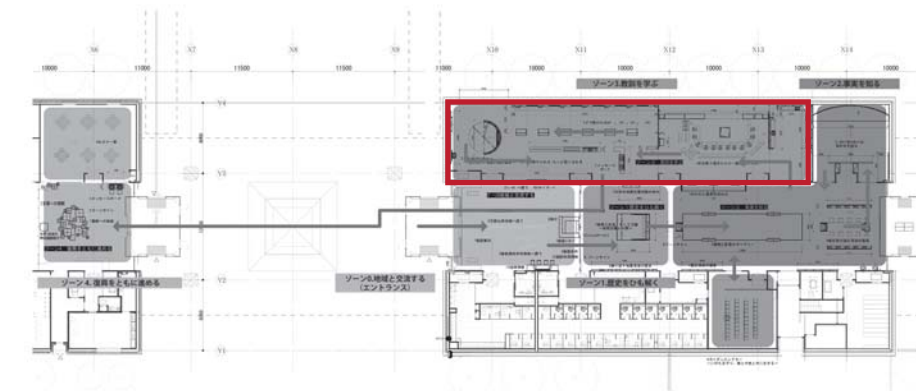
東日本大震災の津波が、いかに巨大で、いかに恐ろしいものであったのか、その実相をしっかりと伝える。三陸沿岸市町村を襲った実際の津波の姿を捉えた実写映像を活用して、その脅威を鮮明に描き出す。



ゾーン3. 教訓を学ぶ

東日本大震災津波の経験から得た様々な教訓を伝え、知恵と技術で備え、主体的に行動することで多くの命を守れることを学んでもらう。

- ・人々が東日本大震災津波にどのように立ち向かったのか、その事実を伝えることで、被災現場の困難を極める状況や救助救援活動の今後のポイント、事前の備えと主体的な行動の重要性などについて学んでもらう。
- ・人の命運を分ける「逃げる・逃げない」の行動について深く考えてもらい、「逃げる」ことの難しさや重要性を心に刻んでもらう。
- ・東日本大震災津波から得た様々な教訓を、未来の命を守る貴重な知恵として発信するとともに、未来の災害から命を守るために、これからどうしたらよいのかについて考えてもらう。



3-1 命を救う道をひらけ 被災地で起きていること／動き出す日本

発災直後に人々はどのような状況に置かれていたのか、命を救うためにどのような行動をとったのか、初動のエピソードを通して、組織力や現場力、備えの重要性への気づきを得られる構成とする。



3-2 災害対策室の8日間

東北地方整備局の活動拠点であった災害対策室で実際にどのような初動がとられ、いかにして“くしの歯作戦”等が迅速に推進されたのか、当時の災害対策室の様子を可能な限り忠実に再現する。



3-3 どう助けたのか？

岩手県の動きを軸に、東日本大震災津波における救助・救援活動の推移、全体像を俯瞰する。こうした活動の背景には、備え、があったことを示し、経験を通じて生まれた教訓を掘り起こし、学べる場とする。



3-4 どう逃げたのか？

「逃げる」ことへの意識と行動が、いかに人の運命を左右するのかを考える場とする。証言とデータから「逃げる」「逃げない」の避難行動の事実を伝え、教訓として学んでもらえるようにする。見学者に津波の危険に遭遇した時の「行動」を問いかける展示も行う。

3-5 もっと助けられる／もっと強くなれる

東日本大震災津波をふりかえり、今後何をなすべきかをみんなで考える場とする。個人、地方自治体、国レベルの未来に向けての防災力強化のビジョン、取組を紹介する。自然災害リスクの高い日本だからこそ行きついた防災哲学などについても言及する。



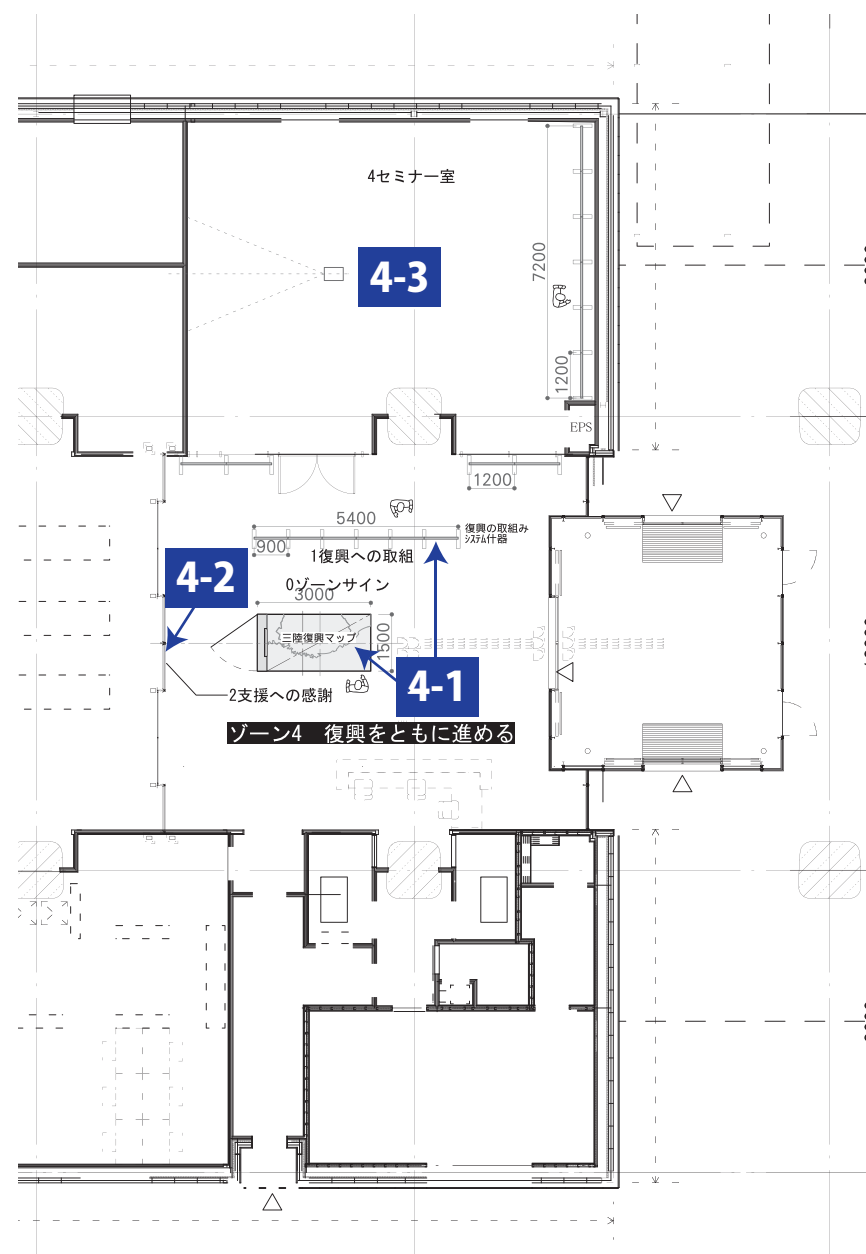
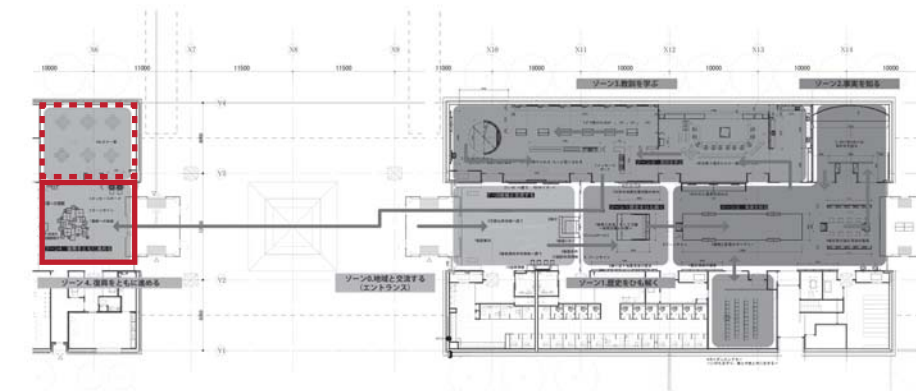
3-6 メッセージボード（入力場）

来館者が自由にメッセージを書き残せる展示装置。展示の感想、これからの防災への意欲など、多様なメッセージを想定。メッセージは蓄積されみんなで共有できるようにする。

ゾーン4. 復興とともに進める

東日本大震災津波を乗り越えて進む被災地の姿を、全国・世界からの支援に対する感謝とともに伝える。

- ・全国・世界からのあたたかい支援に対する感謝の心を示す。
- ・津波災害に強いまちづくりや復興の状況など、被災地の「今」を発信し続け、東日本大震災津波を乗り越えて進む被災地の姿を伝える。



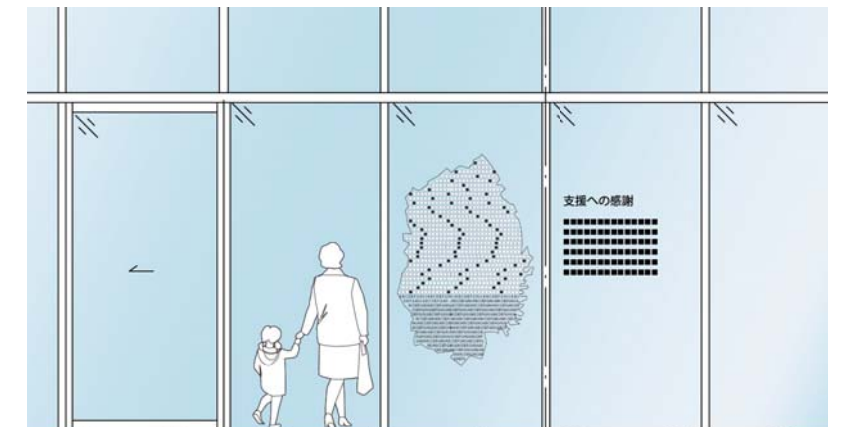
4-1復興への取組

復興に向けて歩んでいる三陸沿岸市町村について、新鮮な情報を提供する場。日々進展する復興を取り上げることから、更新性の高い展示システムを導入する。



4-2支援への感謝

国内外からの厚い支援に対する感謝の気持ちを伝える。世界の方に対し、支援をいただいた各国語の「ありがとう」をガラス面に展開する。



4-3セミナー室（共用）

ワークショップや講座、研修会、団体利用のスペースとしての活用を想定する。

